



かつせんはら100 ほんち



＜宮城病院基本理念＞ 良い医療を安全に、心を込めて

福島県相双地区 医療機関に ごあいさつに伺いました！

2019年度 連携医療機関訪問 ～5月16日～

宮城病院地域医療連携室では、地域の医療機関の皆様とスムーズな連携を図るために、毎年計画的に現地訪問を実施しています。当院に対するご意見やご要望をうかがいながら、日頃の業務では共有しあえない地域の様々な事情や現在抱えている問題などを中心に情報交換をさせていただいています。

2019年度1回目となる今回は福島県相双地域を中心に実施しました。



南相馬市立総合病院を始めとする計6カ所の医療機関を訪問させていただきましたが、診療でお忙しい中打ち合わせの時間をご用意いただき、スムーズに訪問を終えることができました。いずれの医療機関も非常に熱心に地域医療に取り組まれており、当院にとりましてとても参考になる情報をいただくことができました。

また、レスパイト患者様の受入や訪問看護の不足などの状況も共有させていただき、当院が本年12月に開設する訪問看護ステーションのご案内も兼ねて当院が提供できるサービスも紹介させていただきました。

特に訪問看護ステーションの開設については非常に高い関心をもっていただき、訪問看護の需要の高さを実感したところです。

お忙しい中、貴重なお時間をいただきました関係者の皆様にあらためて御礼を申し上げるとともに、今後も皆様のご意見を取り入れながら地域医療連携を密にしシームレスな医療の提供を目指していきたく思います。

経営企画室長 増田 和美

地域医療連携室ニュース

第6回医療と看護・介護多職種連携研修会を開催しました

6月26日に第6回医療と看護・介護の多職種連携研修会を開催しましたのでご報告させていただきます。

本研修会は、研修を通し病院と地域の看護・介護・福祉関係者との知識・技術を学ぶ場とし、且つ地域と病院、医療と看護、介護の連携が円滑に行えるような多職種連携の推進となることを期待し平成29年度から開催しております。

第6回研修会は安藤肇史特命副院長による「経管栄養・胃ろう・気管切開・処置あれこれ これってどうするの?!」WOC認定看護師栗原幸江副看護師長による「スキんテアを起こさないために」をテーマに取り上げました。



経管栄養・胃ろう・気管切開・処置あれこれでは、胃瘻と経鼻栄養の器材の違い、解剖学的視点からどのように体の中に留置されているか、その場合の注意することなどを画像や動画を交えて詳しく、分かりやすく講義されました。合併症として、誤嚥性肺炎を起こしやすいという事から、経管栄養挿入時の体位のこと、栄養剤のこと等もとりあげるなど、学びを深めることが出来ました。アンケートからも、やや難しかったという声もありましたが「注意点を知ることが出来たので今後の看護・介護につなぎたい」「在宅での胃瘻患者も増えているので今回の話はためになりました」などのコメントを頂きました。

また、「スキんテア起こさないために！」では、スキんテア(皮膚裂傷)についてスキんテアがなぜ起きるか、起きやすい皮膚、その環境について、予防対策と発生時の対処について説明されました。参加者の方々から、日頃よく目にするトラブルであり、予防も含めた具体的な対処方法を知ることができました。毎日使用する被覆材の使い方の実技も体験することで、明日からのケアに活かせるといったご意見を頂きました。

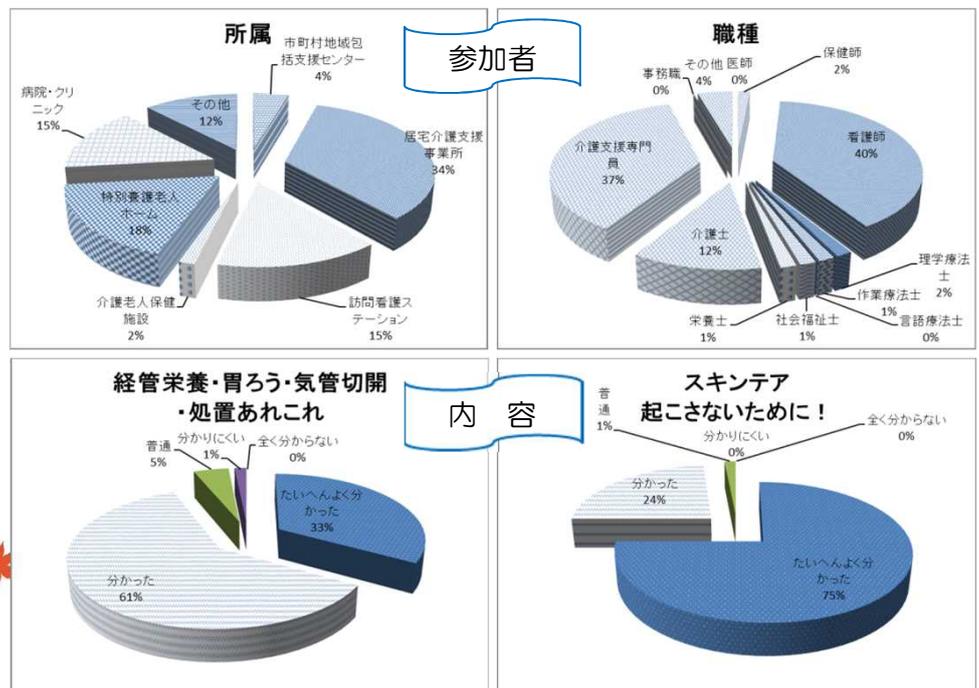
多くの方々にご参加頂きありがとうございました。第7回はリハビリテーションに関する研修を企画しておりますので、是非ご参加下さいませようお待ちしております。

地域医療連携係長 高橋美鈴

研修会のアンケート結果です



みやべりー



教えて！副院長先生

宮城病院の認知症サポート

いわゆる高齢化社会において認知症の患者さんをどのようにサポートしていくかという課題は新聞などでも目にしない日はないほど、大きくクローズアップされてきています。介護負担も大きく、また認知症患者さんによる自家用車の運転で引き起こされる交通事故など様々な問題が派生しています。

この分野で現在当院が果たそうとしている役割の第一は認知症の診断です。記憶力は年齢とともにどなたでも低下していきます。認知症にかかるとそれが加速していき、異常行動などの随伴症状も加わっていきます。

認知症にもアルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型、脳血管障害型や、特発性正常圧水頭症など様々な種類があります。

当院には脳神経内科、脳神経外科を合わせて常勤の脳神経系医師9名が勤務しており、病歴や症状・徴候の確認、高次脳機能検査、脳画像検査などを用いて診断していきます。

病型によって治療やケアの仕方にも違いがあり、適切な対処法を検討しています。



久永
欣哉
副院長

認知症の患者さんは全国で数百万人にのぼり、専門病院だけで治療やケアを行うことができるわけではありませんので、ホームドクターや訪問看護師、福祉スタッフの皆様と連携して患者さんや御家族をサポートしていく必要があります。

当院からは山元町の「認知症初期集中支援チーム」に認知症サポート医1名が参加して、サポートの仕方を助言するなどの活動も行っております。病棟でも認知症に精通した看護師を中心に多職種でケアにあたっています。いわゆる一般病棟ですので異常行動が顕著な患者さんの入院治療は困難で、その場合は精神科病棟のある病院への入院をお願いしております。

今後とも専門病院としての役割を果たしていきますので、皆様の御協力・御支援をお願い致します。

副院長 久永欣哉

当院では **もの忘れ外来** を行っております

- ・ 診察を希望される方は、かかりつけ医を通して、または直接、ご予約ください。
- ・ 診療情報提供書（紹介状）をお持ちでない方は初回時特定療養費（2,700円）がかかりますので予めご了承ください。

☆お電話またはFAXにてご予約ください

受付担当：地域医療連携室

電話：0223-37-1131（代表）

FAX：0223-37-5055（地域医療連携室）



研修会のご案内

独立行政法人 国立病院機構 宮城病院
医療と看護・介護多職種連携研修会

第7回
「知って得するリハビリテーション活用術」
脳卒中編

11月27日(水) 18:30～19:30

第8回は、2020年2月の予定です
テーマ「地域で暮らす人の生活を考える
-事例の振り返りから見えること-」

編集後記

爽やかな秋晴れの下、かつせんはら第4号を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

実りの秋ですね！院内も秋まつりの準備で活気づいております。

私、秋野菜と同じぐらい野球が好き！なのですが、この号が発行される頃にはペナントレースの順位も決まり、クライマックスシリーズを観ながら一喜一憂していることとされます。

かつせんはらをご覧になった皆様が、素敵な秋を楽しまれるようお祈り申し上げます。

地域医療連携室 森

【発行・編集】

独立行政法人国立病院機構宮城病院
地域医療連携室

〒989-2202

亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地

TEL(0223)37-1131(代表)

<http://mnh.go.jp/index.html>